

## Ⅳ 温泉と海へ 湯野浜線

羽越本線の鶴岡駅と湯野浜温泉（鶴岡市）とを結んだ12.2kmの電鉄です。昭和3年（1928）、庄内電気鉄道株式会社が設立され、4年営業を開始し、18年に合併して庄内交通株式会社湯野浜線となりました。

途中には北大山・善宝寺など5つの駅・停留所があり、善宝寺や湯野浜温泉への観光客、海水浴客、通勤・通学客、商人などを輸送しましたが、50年（1975）3月31日、営業を終了しました。

## Ⅴ さよなら電鉄 そして今

やまがたの3つの電鉄線は、昭和49年から50年にかけてあいついで営業を終えました。新聞やテレビは特別番組などで半世紀余にわたって果たした各電鉄の役割を紹介し、廃止を惜しみました。

廃止後は、他県の電鉄会社に引き取られた客車もありましたが、電車や駅舎の多くは解体され、線路も取り払われました。しかし、各電鉄の地元には電車や電鉄関係資料を保存・公開している資料館などがあり、また、線路跡の多くが自転車・歩行者専用道路として活用され、広域水道の水道管が埋設されているところもあります。

当時の映像資料をはじめ、活用されている跡地や関係資料から、現在も電鉄の姿をしのぶことができます。

### \* 展示協力者・機関 \*

（順不同・敬称略）

池上久治郎（西川町）	海藤 忠男（大石田町）
久保田久雄（酒田市）	半澤 經一（白鷹町）
山崎 正（高島町）	堤 一郎（東京都）
N H K山形放送局	南陽市教育委員会
河北町立中央図書館	高島町郷土資料館
月山の酒蔵資料館	善宝寺鉄道記念館

### \* 主な展示資料 \*

- 1 駅名板〈かいしゅう〉（本館所蔵）
- 2 駅名板〈たかはた〉（高島町郷土資料館所蔵）
- 3 駅名板〈ぬかのみ・のりかえ高島方面〉（本館所蔵）
- 4 駅名標示板〈つるおか 他〉（善宝寺鉄道記念館所蔵）
- 5 高島線列車発車時刻表（高島町郷土資料館所蔵）
- 6 湯野浜線電車発着時刻表（本館所蔵）
- 7 三山線海味駅旅客運賃表（本館所蔵）
- 8 高島線竹ノ森駅普通旅客運賃表（高島町郷土資料館所蔵）
- 9 湯野浜線善宝寺駅旅客運賃表（本館所蔵）
- 10 発券器（高島町郷土資料館所蔵）
- 11 乗車券日付機・改錶（本館所蔵）
- 12 電話機・携帯電話機（月山の酒蔵資料館所蔵・本館所蔵）
- 13 タブレット閉塞機（本館所蔵）
- 14 タブレット（月山の酒蔵資料館所蔵）
- 15 タブレットキャリヤ（本館所蔵）
- 16 合図灯・手旗・指導通信式腕章（本館所蔵）
- 17 行先側板（高島町郷土資料館所蔵・本館所蔵）
- 18 運転レバー・ブレーキハンドル（本館所蔵）
- 19 電車前照灯・尾灯・車内灯（本館所蔵）
- 20 錘式転轍機・発条転轍機（本館所蔵）
- 21 レール（本館所蔵）
- 22 保線工具類（本館所蔵）
- 23 社員制帽〈駅長・助役・社員〉（本館所蔵）
- 24 車掌用かばん（本館所蔵）
- 25 乗車券各種（本館所蔵）
- 26 さよなら記念乗車券（本館所蔵）
- 27 3電鉄線廃止記念パンフレット（本館所蔵）
- 28 三山電鉄関係文書資料（池上久治郎氏所蔵）
- 29 三山鉄線線路敷設計図面（池上久治郎氏所蔵）
- 30 県内各鉄道会社業務報告書綴（池上久治郎氏所蔵）
- 31 三山線関係文書資料（池上久治郎氏所蔵・本館所蔵）
- 32 谷地軌道列車時刻表（河北町立中央図書館所蔵）
- 33 谷地軌道関係写真（河北町立中央図書館提供）
- 34 赤湯人車軌道写真（南陽市教育委員会提供）
- 35 尾花沢線関係写真（海藤忠男氏・半澤經一氏提供）
- 36 3電鉄線関係写真（久保田久雄氏撮影 本館所蔵）
- 37 高島線・湯野浜線関係映像記録（N H K山形放送局提供）

## 企画展

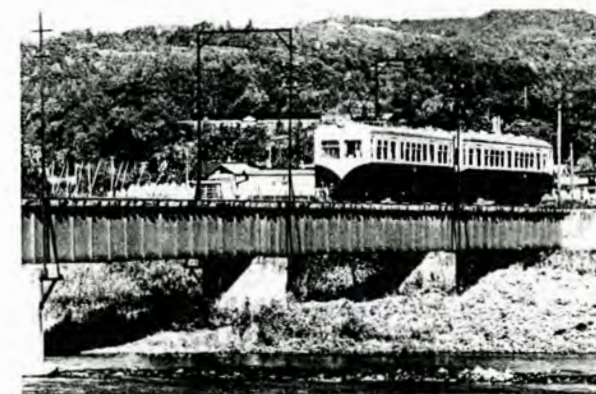
# なつかしの電鉄

— 三山線・高島線・湯野浜線 —

平成7年7月15日(土)～8月20日(日)

## 山形県立博物館

〒990 山形市霞城町1-8 TEL0236-45-1111



三山線寒河江川橋梁（昭49.10.25 久保田久雄氏撮影）

## 開催にあたって

約20年前まで半世紀間あまり、やまがたにも電鉄が走っていました。山形交通(株)の三山線と高島線、庄内交通(株)の湯野浜線です。住民や観光客を乗せ、米・果物・鉱石・木材・木炭などを運びました。しかし、昭和49年から50年にかけてあいついで廃業してしまいました。本展は関係資料を展示し、地域交通に果たした電鉄の役割をふりかえろうとするものです。

なお、本展展示資料のうち、写真資料を除く本館所蔵資料は、電鉄廃止の際に山形交通(株)および庄内交通(株)より寄贈いただいたものです。

本展の開催にあたって、資料出品者をはじめご協力をいただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

館長 植松芳平

## I やまがたの私鉄

大正年間（1912～26）にはいと、産業の発達や旅客の増加にともない、やまがたでも鉄道の延長を求める気運が高まり、長井線や左沢線などの国鉄支線とならんで、大正5年（1916）開業の谷地軌道をはじめ、私鉄が開設されました。

これらの私鉄のうち、営業距離も長く、長期間にわたって地域の足として大きな役割を果たした鉄道に、三山線・高島線・湯野浜線の3つの電鉄がありました。しかし、沿線の鉱山や林業の衰退などの産業の変化、トラックやバス、自家用車の普及などの交通事情の変化により、昭和49年（1974）から50年にかけてあいついで廃止され、約半世紀で任務を終えました。

**谷地軌道**は、奥羽本線神町駅（東根市）と谷地（河北町）を結んだ軌道です。大正4年（1915）、谷地軌道株式会社が設立され、神町駅から最上川東岸まで軌道が完成、5年、正式に開業しました。7年には最上川を渡る専用の木橋を架けて谷地の道海地区に谷地駅を移しました。

途中に羽入・藤助新田の2つの停留所があり、「エモコ（芋子）汽車」と呼ばれ、永松鉱山の鉱石などの貨物や旅客を運び来ました。しかし、白岩（寒河江市）までの延長案が三山電鉄の開業で中止になり、その後、寒楯線の計画やトラック・バスの進出などにおされて、昭和10年（1935）営業を終了しました。

**赤湯人車軌道**は、奥羽本線赤湯駅（南陽市）と赤湯温泉を結んだ軌道です。大正5年（1916）、赤湯人車軌道株式会社が設立され、8年に開業し、15年または昭和2年（1927）に廃業したといわれます。人車は定員10人程度の

## 山形県の私鉄一覧

	事業社名	区間	距離	開業	廃業	動力	軌間	備考
1	谷地軌道	神町－谷地	5.8 km	大 5. 2	昭 10.	蒸気	762 mm	
2	赤湯人車軌道	赤湯駅－赤湯町	3.2 km	大 8. 5	大 15.	人力	609 mm	
3	高島鉄道	糠ノ目－高島	5.2 km	大11. 3	昭49.11	蒸気	1,067 mm	昭4.8電化 昭4.8電化 昭27.内燃化
		高島－二井宿	5.3 km	大13. 8	昭43.10	蒸気	1,067 mm	
4	尾花沢鉄道	大石田－尾花沢	2.6 km	大15. 8	昭45. 9	蒸気	1,067 mm	昭27.内燃化
5	三山電気鉄道	羽前高松－海味	8.8 km	大15.12	昭49.11	電気	1,067 mm	昭18.2合併し、山形交通となる
		海味－間沢	2.6 km	昭 3. 9	昭49.11	電気	1,067 mm	
6	庄内電気鉄道	鶴岡－湯野浜温泉	12.2 km	昭 4.12	昭50. 3	電気	1,067 mm	昭18.10合併、庄内交通となる

〈注〉(1) 久保田久雄氏作成：「山形県大百科事典」より転載。(2) 赤湯人車軌道の距離は「南陽市史」に1.9kmとある。

人力軌道車で、「ズンシャ（人車）」と呼ばれ、後から人が押してレールの上を走らせました。

**尾花沢線**は奥羽本線大石田駅と尾花沢を結んだ鉄道です。大正13年（1924）、尾花沢鉄道株式会社が設立され、15年に営業を開始しました。はじめは蒸気機関車でしたが、昭和27年（1952）ディーゼル機関車にかわりました。その間、18年に合併して山形交通(株)尾花沢線となりましたが、バスやトラックにおされて、昭和45年（1970）9月30日、営業を終了しました。

## II 出羽三山へ 三山線

左沢線の羽前高松駅（寒河江市）と間沢（西川町）とを結んだ11.4kmの電鉄です。大正13年（1924）、三山電気鉄道株式会社が設立され、15年に海味まで開通、昭和3年（1928）に間沢まで全線開通しました。沿線を通る寒河江川の水力発電で成長していた山形電気株式会社から送電を受けて最初から電気運転を行い、18年には合併して山形交通株式会社三山線となりました。

途中には白岩・羽前宮内・海味など8つの駅・停留所があり、出羽三山参りの旅客や通勤・通学客、沿線の鉱山産の鉱石、米・木材等の輸送に活躍しましたが、49年（1974）11月15日、営業を終了しました。

## III 生糸と果物の里へ 高島線

奥羽本線の糠ノ目駅（現高島駅）と二井宿（高島町）とを結んだ10.5kmの電鉄です。大正9年（1920）、高島鉄道株式会社が設立され、11年に糠ノ目・高島間、13年に高島・二井宿間が開通しました。はじめは蒸気機関車でしたが、昭和4年（1929）に電化が完成、18年に合併して山形交通株式会社高島線となりました。

途中には竹ノ森・八幡宮前・上駄子町など7つの駅・停留所があり、通勤・通学客や観光客のほか、沿線産の米・生糸・木材・木炭・果物などを輸送しました。しかし、高島・二井宿間が、41年の鉄橋沈下によるバス代行運転ののち、43年に廃止となり、49年（1974）11月15日には全線の営業を終了しました。

## 山形県の鉄道図

